

医学部 看護学科(論 文) 問題解説

□■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

- [I] 有吉佐和子の著書『恍惚の人』の一部である。著書では、認知症状が出現した父、息子（夫）、嫁（妻）、孫が同居し、父の認識能力の低下、生活行動で生じる諸問題が描写されている。出題範囲では、父の認知症状を通じて自らの老いが近づくことを意識する夫と妻が感じる将来への不安、認識能力の低下から介護上生じる諸問題が繊細に表現されている。看護職を目指す受験生には、老いに伴って生じる変化、同居する家族の心情への理解力、問題意識、表現力を問い合わせ、総合的に評価する。
- [II] 課題図は、わが国におけるがん対策のためのがん検診受診の現況にかかる統計資料である。まず初めに図1として、がん検診の受診状況について、性別・年代別の特徴を示し、①情報を適切に正確に読み取ることのできる情報把握能力（情報を網羅的に理解する力、情報を正確に理解する力）、および②掌握了情報を整理し、適切かつ簡潔に要約する能力（情報を体系的に纏める力）、③要約した内容を適切な日本語で論理的に記述、説明する力（表現力、論理的思考力）を評価する。具体的には、過去1年以内にがん検診を受診した人は全体で5割に満たないこと、男性に比して女性の方が受診している者が多いこと、年代別では40代、50代で過去1年以内の受診率が5割を超えること、一方で18から29歳は7割以上がこれまでがん検診を受診したことがないこと等を論理的かつ端的に記述できる能力である。次いで、図2として、がん検診を受診したことがない者、あるいは受診が2年以上前の者が受診していない理由を性別・年代別に提示し、上記①・②・③の力を評価するとともに、設問（1）および図2から④掌握了情報をについて意味内容の相互関連性を分析する能力（分析力）と、今回提示されている情報の範疇において⑤掌握了情報に基づき、今後の対策について自らの見解を論理的かつ明確に、倫理観をもって論述できる能力（問題解決能力）を評価する。具体的には、a.がん検診を受診していない理由は多様であり、年代別による特徴も見られること、b.aと図1から読み取った内容を相互に関連付け合いながら、がん検診受診を効果的に促すために必要な方策について、多角的な視点からの自分の考えを論理的に、適切な日本語表現を用いて、読み手が理解・納得できるよう記述できる能力を評価する。